

事務事業名		学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業				☐ 実施計画掲載事業		☐ 合併建設計画掲載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進				事業期間		予算科目				
	施策名	28 社会性豊かな青少年の育成						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 生涯学習推進体制・施設の充実						01	10	05	01	02
根拠法令						☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成24 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入						
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課										
	課長名	江刺雄輝										
	係 名	生涯学習係	電話	27-3111								
	担当者	柳本綾子	内線	272								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
・スクールガード配置事業、図書環境整備支援事業を実施。希望する市内各小中学校にスクールガード、図書支援員を配置し、登下校時の児童生徒の安全確保と、図書室の環境整備を行い児童生徒の読書推進を図る。 ・主な業務は、スクールガード、図書支援員の配置、活動実績報告の受付と謝金の支払、配置校との連絡調整。 ・事業費はスクールガード、図書支援員への謝金、図書環境整備のための消耗品購入費、スクールガード傷害保険料となる						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金			
									都道府県支出金			
									地方債			
									その他			
									一般財源			
									事業費計 (A)	0		
	人件費	正規職員従事人数										
		延べ業務時間										
		人件費計 (B)	0									
		トータルコスト(A)+(B)	0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

スクールガード配置、図書支援員配置

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

前年度に同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市内小中学校

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

スクールガード配置により、登下校時の安全を確保する
図書支援員の配置により、読書推進を図る

④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)

地域・学校が一体となり児童生徒の学習環境の向上がなされる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア スクールガード委嘱人数	人
イ 図書環境支援員委嘱人数	人
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 小中学校数	校
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ スクールガード配置校数	校
シ 図書環境支援員配置校数	校
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
		単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円	9,483	13,352	11,938	11,919	18,000
		地方債	千 円					
		その他	千 円					
		一般財源	千 円					
	事業費計 (A)		千 円	0	9,483	13,352	11,938	18,000
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	2	1
		延べ業務時間	時 間		360	324	468	360
		人件費計 (B)	千 円	0	1,440	1,296	1,872	1,440
	トータルコスト(A)+(B)		千 円	0	10,923	14,792	13,791	19,440
⑤活動指標		ア	人	41	53	49	49	50
		イ	人	15	17	13	13	20
		ウ						
⑥対象指標		カ	校	20	20	20	20	20
		キ						
		ク						
⑦成果指標		サ	校	9	13	12	9	20
		シ	校	9	11	9	11	20
		ス						

事務事業ID	1505	事務事業名	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業
--------	------	-------	--------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
平成24年度より実施された文部科学省の学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業について、岩手県からの委嘱をうけ実施。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
震災により街灯やガードレールが減り、通学路が変更になった児童生徒の登下校時の安全を確保するため実施された。現在は街灯、ガードレール等の問題は解消されているが、工事車両の増加などにより、登下校時の安全監視の必要性は変わらない。 また、震災支援で送られた各校への支援の図書は、学校関係者だけではどうにもならない状況であった。現在は支援による図書の整理は終了しているが、図書環境の整理等により、児童生徒の読書推進を図っている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
スクールガードや図書支援員を配置した学校からは、次年度以降も是非継続してほしいとの声が寄せられている			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	地域、学校が一体となって児童生徒の学習、読書の環境整備が図られ、生涯学習の推進に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	震災により変化した通学路での安全確保や、図書環境の整理に地域住民を支援員として配置し実施することは、児童生徒の学習環境整備を図るとともに、地域コミュニティの再生につながることであり、公共関与は妥当である
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	市内の小中学校が対象であり、対象の拡大縮小の余地はない
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	震災後、通常の行事に加え様々な数多くの支援等への学校関係者の対応が増加、地域住民の移動や生活環境の変化等で、配置できない学校があった。学校の負担を減らしながら、事業に対する理解を得ることが必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	登下校時の児童生徒の安全監視がなくなることで、通学路における安全が確保できない
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	現在謝金を支払って配置している支援員、安全監視員を無償ボランティアにすることで、事業費の削減は可能であるが、支援員、安全監視員の理解、協力が必要となる
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	学校からの要望、地域の人材発掘を取りまとめるコーディネーターを配置することで可能である
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	事業の対象が小中学校及び児童生徒であり、公平であるとする

事務事業ID	1505	事務事業名	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業
--------	------	-------	--------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 様々な環境の変化があった中、登下校時安全は確保できた。また、地域住民がスクールガードとして活動し、児童生徒との交流が生まれ、新たな地域コミュニティ形成の一助となった。 図書環境支援印により多くの本の整理をはじめ、子供たちの興味を引く図書環境を整えることで、子供たちの読書推進につなげることができた。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 地域コーディネーターを配置することで、事務負担の軽減を図る等検討が必要。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上	●																															
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 支援員、安全監視員を配置した学校からは、是非次年度以降も継続してほしいとの声が寄せられるが、まだ配置を希望しない学校もある。学校の負担を軽減しながら、事業への理解を得ることが課題となっている。																																	

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	生涯学習課長 江刺雄輝

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている		②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																																
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。地域コーディネーターの配置により事務負担が軽減されるか、検証が必要である。																				
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 現状を維持しつつ、地域コーディネーターの配置について検討する。なお、県の委託が終了した後の当該事業の取扱についても検討する必要がある。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																														
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																		
		コスト																																
		削減	維持	増加																														
成果	向上	●																																
	維持			×																														
	低下		×	×																														

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
